

【小悪魔】

「さあ〜て、今度の可愛そうなヒロインはあの子よ」

【小悪魔】

「この国には奴隷制度ってのがあるのよねえ…あの子もこれから買われて行くみたい」

【部族の女性】

「うあ…うう、ううう…」

【小悪魔】

「首輪と猿ぐつわを填められ、手は鎖で繋がれ、ぼろ布一枚で見物人の前を無理矢理歩かされる」

【小悪魔】

「はあ、哀れなものねえ…ま、よく見る光景だけどね」

【小悪魔】

「人間って愚かで残酷よねえ、あーいやだいやだ」

【小悪魔】

「ま、だからこそ私の出番もあるのだけどね♪」

【部族の女性】

「やあ…んんぐ、うう、んん…うう」  
(やあ…離し、うう、苦し…うう)

【部族の女性】

「んに、んんんん、うう…」  
(国、帰りたい、うう…)

【小悪魔】

「あらまあ、涙ぐんじゃって。よく見れば美人だし、スタイルもいいわね。嗜虐心をそそられるわ、こりゃ」

【部族の女性】

「きゃあ！ んんん、んんんん、んんんう」  
(きゃあ！ 痛い、乱暴、止めてえ)

【部族の女性】

「んんんん、んん、んん、んんん、んんん」  
(引っ張る、イヤ、んあ、首が、苦し)

【小悪魔】

「うわ〜あの首輪、えげつなあ〜、締めたり緩めたり出来るんだ、あれは苦しいわねえ」

【小悪魔】

「どうする、あなたの首がこんな風に、ギュギュウ〜  
って締まったら…」

【小悪魔】

「気持ちいいような、苦しいような不思議な感覚でしょお？ もっと締めちゃう？」

【小悪魔】

「けどそしたら…死んじゃうかも、なんて」

【小悪魔】

「夢見心地のままイッちゃう？うふふ」

【小悪魔】

「それもいいかもよお？ あっちでずうっと私とエッチな事、しましょ」

【小悪魔】

「うふふ、冗談よお」

【小悪魔】

「っと、お立ち台に到着ね。ふうん、もうせりに掛けちゃうんだ」

【部族の女性】

「んん、んん、んんん、んん」

(イヤ、布、取るの、イヤ)

【小悪魔】

「お、全裸にしちゃう？ 品定めには必要だもんね」

【小悪魔】

「ほら、見てよお、おっぱいぶるぶるしてる、すっごお〜い」

【部族の女性】

「んん、んんんうんんううん、んん！」

(やあ、こんなに人がいるのに、駄目！)

【小悪魔】

「おお、その健気に抵抗する姿、そそりますねえ」

【部族の女性】

「んん！？ んうううううん！」

(やめ、いやああああああ！)

【小悪魔】

「あらあ取れちゃった、ぜーんぶ丸見えだねえ、くふふ」

【部族の女性】

「んんうう！ んううううううん！」

(見ないで、見ないで下さいいいいっ)

【小悪魔】

「おお、隠そうとして体をくねらせる仕草、エロいねえ」

【小悪魔】

「私が男なら、きっとおちんちん立っちゃうよ、うふふ」

【小悪魔】

「あなたのは…あん、聞くまでも無かったかしら、うふふ」

【部族の女性】

「んうううう、んううううううん…んん！？」

(や、やめ、見ないで、見ないで…んきやあ)

【小悪魔】

「あら、ビンタされちゃった、女の子叩くなんて酷いわよねえ」

【部族の女性】

「んう、ううう、んうう、ううううう」

(うう、ううう、んうう、ううううう)

【小悪魔】

「でも、まあ、捕まっちゃったんだもの、しょうがないわよね」

【小悪魔】

「お、無理矢理立たされてる。さあ品評会の始まり始まり」

【部族の女性】

「んう、んんん、んん、んんん、んんううううん」  
(触らないで下さい、やだ、私には国に約束した人がいるんです！)

【小悪魔】

「わ、あの子許嫁がいるみたいよ」

【部族の女性】

「んん、んんん、んうううん、んんうん」  
(胸は止めて、あの人が最初に触る…やああ！)

【小悪魔】

「へえ、体にも触られた事なかったんだ。あーあ、こんな異国で純潔を散らすなんて思ってもみなかったでしょうねえ」

【部族の女性】

「ん、んう、んうう、んんうう、んううう！」  
(やあ、痛い、強い、んんうう、やああああ)

【小悪魔】

「あーあ、あんなにもみくちゃんにされちゃって、下手に抵抗するから」

【小悪魔】

「けど、男の人なら、しょうがないのかな？ あなたも、胸、揉みたいでしょ？」

【小悪魔】

「私もそこそこだと思うのだけど？」

【小悪魔】

「ああん、ダメダメ今は見るだけ、ほら、あっちの子、  
もっと大変な事になっちゃってるわよ」

【部族の女性】

「んんうう、んん、んうう、んうううう！」  
(痛い、やめ、な、何をするの、もう、やめてえ)

【小悪魔】

「感じて来てる…訳でもなさそうね。ほら、口で  
はイヤと言っても体は、なんて展開あるじゃない？」

【小悪魔】

「それでいつの間にか快樂落ちするっての。けど…あれ、本気で嫌がってるわねえ」

【部族の女性】

「んううう、んうん、んん、んんううん！」  
(離して、もう、胸触らないで、やあああ)

【小悪魔】

「まあ、奴隷の彼女には、拒否する権利は無いんだけど」

【小悪魔】

「と、やめたわね。けど品定めはお終い、って訳じゃ無いのよね」

【小悪魔】

「ふふ、次々に入札されてるわ、これはかなりの値が付くんじゃ無い？」

【部族の女性】

「んん、んん、んん、んうん」  
(はあはあはあ、うう～)

【部族の女性】

「んん！？ んんん、ンンンン、んんんんん！」  
(や、そこだけは、そこだけは触れないでええ！)

【小悪魔】

「お、ついに女性器のご開帳ね、ふふ」

【小悪魔】

「ん？ あそこまでやる必要はあるのかって？ そりゃあるわよ」

【小悪魔】

「男の奴隷ならともかく、女は労働の為だけに買われる訳ではないし…アレだけ美人でスタイルも良ければなおさらね」

【小悪魔】

「売り手としてはいかに価値がある商品か、って示さないでだし」

【小悪魔】

「必死に抵抗してるけど多勢に無勢ね。ほら、薄く生えた陰毛をかき分け、ぴっちり閉まった筋に手が伸びて」

【部族の女性】

「んんんん！ んんんんううう、んんううううううん！」  
(やめて、やめて、こんな所で、やあああだあああ)

【小悪魔】

「ゆっくりと大陰唇を左右に開いて…ああ、綺麗な色してる。肌は黒くても、あそこはピンクなのね」

【小悪魔】

「丁寧に丁寧に、少したりとも傷を付けないように  
…ふふ、繊細な指使いね、羨ましい」

【小悪魔】

「あ、ほら、何か塗っているの見える？ あれ、  
ちょっとしたお薬よ。感度を無理矢理上げさせて…こんなにもイヤらしく喘ぎますって見せたいのね」

【小悪魔】

「ふふ、てらてらと光ってる。無理矢理濡らされてる」

【小悪魔】

「あん、私も濡れてしまいそう…え、本当よ？ 見て見たい？」

【小悪魔】

「人間じゃなくても、あそこは…同じかもよ？ くふふ」

【小悪魔】

「あの子みたいに、優しく愛撫されたら、あんあん、って可愛らしい声で鳴いちゃうかも？」

【部族の女性】

「うううう、うううううう、ううううううううん！」  
(やだ、体が、おかしい、どうしちゃったの私)

【部族の女性】

「うううう、ううううう、ううううう、ううううう」  
(こんなのイヤなのに、勝手に体が、くううう)

【小悪魔】

「媚薬に抗ってる。あの子頑張り屋さんね。その姿がそそるわあ」

【部族の女性】

「ううううう、うううううう、うううううう、ううう！」  
(体が熱い、うう、あそこが、じんじんして、くうう)

【小悪魔】

「あそこからおつゆ、たっぷり零れて来てる、薬の効果もあるとは言えど、ふふ、あの子素質あるかも」

【小悪魔】

「ほら、現に目ざとい客が高額で入札してるわ、おお、凄いいい」

【小悪魔】

「ここまで来たらもう一押しね…え、まだ何かするのかって。見てたら分かるわよ、ほら」

【部族の女性】

「んん、んん、んん、んん、んん」  
(指が、離れた、はあはあはあ)

【小悪魔】

「ふふ、オマンコ弄りが終わったからって安心してると…」

【部族の女性】

「んん！？ んんんん、んんんんんんんん！」  
(お尻！？ え、やだ、そんな所、何をするの)

【小悪魔】

「あは、慌ててる。そうよね、前が処女だった位だもの、まさか後ろを弄られるだなんて、想像も出来ないわよね」

【部族の女性】

「んんんん、んんんんんんんん！ んんんん！」  
(触らないで！ そんなとこ、駄目、は、恥ずかしい)

【小悪魔】

「人に寄ってはあそこを見られるより恥ずかしいでしょうね。分かるわあ」

【小悪魔】

「でも無駄よねえ、ほら、豊満なお肉をかき分け、お尻の穴、晒されてる、見事な眺めね、くふふ」

【部族の女性】

「んんんんんんん、んんんんんんんんんん、んんんんんんんん！」  
(やだやだやだああああああ、やめてええ、お尻なんて見せないでえ)

【小悪魔】

「きっちりと閉じたアナルのシワが、呼吸の度に蠢いているわ、色素の沈着もなく、とても綺麗」

【小悪魔】

「きっと、本来の用途にしか使った事が無いのでしょうね」

【小悪魔】

「けど…アナルも立派な性器なのよねえ、だから…」

【部族の女性】

「んん！？ んんんんんんんん、んんんんんん」

(広げてる！？ やめてえ、やだああああああああ)

【小悪魔】

「で、こっちの穴にも、媚薬が…入っちゃうのよねえ」

【部族の女性】

「んんんん！？ んんんんんんんんんん」  
(きひい！？ ゆびいいいい、いたいいいいいい)

【部族の女性】

「んんんん、んんんんんんんん！ んんんんんんんんんんんん！？」  
(痛い、痛いよおお、指入れないで、止めて、んんんんんん)

【小悪魔】

「まあ、男の太い指を入れられたら、ああなるわよねえ」

【小悪魔】

「けど、後少しの辛抱よ、すぐに媚薬が効いて、気持ちよくなっちゃうんだから」

【小悪魔】

「あら、あなた凄いい目で見てる。興奮しちゃった？ 参加したい？」

【小悪魔】

「縛られ泣きわめく女の子のうんち穴に、指、突っ込んでみたい？」

【小悪魔】

「新たな性癖が目覚めちゃうかもよ？ うふふ」

【部族の女性】

「んんう、んんんんんんんんん、んんんんんんん」  
(やめえ、んんう、やめて…くうん、はあはあはあ)

【小悪魔】

「あは、感じてる感じてる。腸液がダラダラ零れて、太もも濡らしてるわ」

【小悪魔】

「あの子の肌の色と相まって、とおってもイヤらしい」

【小悪魔】

「ほら、どんどん値も上がってるわ、そろそろ落札されるわね」

【部族の女性】

「んんう、んんんんんんんん、んんんうううううん、んんんんんんん」  
(はあはあ、こんな所が気持ちいいだなんて、私、おかしくなっちゃった)

【部族の女性】

「んううううう、んんんんんんんんん、んんんんんんん」  
(やう、恥ずかしいお汁、止まらないよお、やだああ)

【小悪魔】

「猿ぐつわの隙間から涎を垂らして、おまんこからは愛液を漏らし、アナルからは腸液を垂れ流してる」

【小悪魔】

「なんてイヤらしい光景なのかしら。男じゃなくても興奮しちゃう」

【部族の女性】

「んううううううううううう、んんんんんんん」  
(なんか変なの、お尻が良いの、くううううううううん)

【小悪魔】

「指がズボズボ出入りする度に、イヤらしい音、してる。ああ、あんなにシワが伸びて…くふふ」

【小悪魔】

「腸液と愛液でぐちゅぐちゅね、やだ、興奮しちゃう」

【小悪魔】

「あ、ほらあの子、もう行くわよ…すり一つ、わん…ゼロ」

【部族の女性】

「んん！？ んうううううううううううん」  
(くひい！？ んきゃああああああああああん)

【小悪魔】

「ああああああああん、イっちゃったあ」

【部族の女性】

「んん、んん、んん、んん、んん、んんううう」  
(はあはあはあはあ…ううう)

【小悪魔】

「あん、私も軽くイっちゃったわ、いやだ、くふふ」

【小悪魔】

「あなたは…ふふ、聞くまでも無いかしら？」

【小悪魔】

「もっと気持ちよくなりたい？ うふふ、どうしようかしら、ふふふ」

【小悪魔】

「けどお、何発もしちゃったら、他の子のお話し、聞けなくなっちゃうわよお？」

【小悪魔】

「まだ聞きたいでしょう？ ほら、あの子みたいにえっちな姿になっちゃう女の子のお話」

【小悪魔】

「お楽しみは後にとっておく物よ」

【小悪魔】

「あ、ほら、落札されたみたいよ？ 凄い値段付いてる  
どうやら落札したのはあのおじさんみたいね」

【小悪魔】

「え？ 彼女はどうなるのかって？ まあ、すけべそうだけど、凶悪な人物には見えないし、  
お手伝い兼、夜のお相手、って所かしら」

【小悪魔】

「何何、あの子に感情移入しちゃった？ ふふ、優しいんだ、うふふ」

【小悪魔】

「あはは、ムキにならなくてもいいわ。けど、そんなあなたにはこれからはちょっとツライ場面かしら」

【小悪魔】

「何が起こるのかって？ あのね、自分の物には印を付けるでしょ？」

【小悪魔】

「あなただってそんな経験あるわよね？」

【小悪魔】

「だからあの子にもね…ほら、近くに竈があるでしょ、あれでね」

【小悪魔】

「ん、分からない？ 木札じゃ外せちゃうでしょ？ だから、真っ赤っかに焼けた鉄の印で」

【部族の女性】

「んん？ ん、んんん…」  
(嘘…いや、そんな、まさか…)

【小悪魔】  
「印を付けるの、消えないようにってね」

【部族の女性】  
「んん！？ んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん！！！！」  
(んびii)

【小悪魔】  
「うっわ、煙出てる。人の肉ってあんな風に焼けるのねえ、グロいわぁ」

【小悪魔】  
「特におでこにっるのがエグいわよね、痛そうお」

【小悪魔】  
「それにしても凄い悲鳴ね、鼓膜びりびりしちゃう」

【部族の女性】  
「んん、んん、んん…んん、んん、んん」  
(はあはあはあはあ…ううう、うぐぐぐ)

【小悪魔】  
「ん、しっかりと印が付いたわね。これで奴隷の出来上がりっ」と

【小悪魔】  
「あら、あなた顔色が悪いわ、大丈夫？」

【小悪魔】  
「こんな光景、初めて見たのでしょうし…ふふ」

【小悪魔】  
「ま、無理も無いかしら、特別に私の膝、貸してあげる」

【小悪魔】  
「ふふ、感謝しなさいな、うふふふ」